第108号
あらかわ区報Jr.
ジュニア
ArakawaKuhoJunior
平成29年5/18
発行　荒川区●23,000部発行
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 ☎(3802)3111

あらかわのまちを花と緑でいっぱいに

区では、みんなが幸せを感じられるまちを目指して、花や緑を増やす緑化事業に力を入れています。事業の１つである「街なか花壇づくり事業」は地域の皆さんの協力のもと、公園や道路沿いに花壇を設置して、草花を育てるという活動です。尾久第六小学校のジュニア記者が、街なか花壇づくりを体験しました。

問合せ　道路公園課　☎内線2752

▲「末広会」の皆さんに教わりながら街なか花壇づくりを体験したジュニア記者。写真中央左から鈴木麻友さん、本多由希さん、石田淳之介くん、小松優気くん

はかせ

家のまわりや、学校の近くに花が咲いていると気持ちがいいのう。花や緑は、生活に癒しや潤いを与えてくれるとともに、火災の燃え広がりを防いだり、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止したりする効果があるんじゃ。区では、花や緑をもっと増やすために、「街なか花壇づくり事業」のほか、都電荒川線沿線へのバラの植栽や、区民の皆さんが愛情を持って作り育てている花壇などを表彰する「あらかわ緑・花大賞」などの緑化事業を行っておるんじゃ。その成果もあって、街なかの緑は確実に増えていっておるぞ。

あらかわ区報 Jr. は荒川区ホームページでご覧になれます。
https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html

次は6月に発行する予定です

街なか花壇づくりにチャレンジ！

公園や道路に設置した花壇で、区民の皆さんが草花を植えて育てる「街なか花壇」。平成18年度には13か所だった街なか花壇の数は、今では約90か所となり、約7倍にも増えています。今回、新しく街なか花壇を始める西尾久ふれあい館で、尾久第六小学校のジュニア記者が、ボランティアの皆さんと一緒に花植えを体験しました。

花の色や咲き方を考えて配置を相談

最初に道路公園課の高瀬嘉典さんから、植える花の種類と特徴の説明がありました。初めて聞く花の名前もあり、ジュニア記者は早くも興味津々。

花植えの指導をしてくださったのは、この街なか花壇で活動するグループの「末広会」の皆さんです。

まず、花の配置を決めることからスタート。「この列は同じ色で揃えよう」「小さい花は手前側に置こう」と、ジュニア記者もアイデアを出しながら、花をポットのまま仮置きします。

すると末広会の方が「横に広がる花は花壇のすき間を埋めてくれて花壇がきれいに見えるから、手前に持って来ましょう」とアドバイス。みんなで花の位置を入れ替えてバランスを整えました。

◀「臭いにおいで悪い虫を寄せ付けないんですよ」と、花の特徴の説明を受けました

▲◀「黄色い花が真ん中にあると花壇全体が華やかになるわよ」末広会の方のアドバイスで花の位置を変えていきます

花を植えるのは大変だけど楽しい

いよいよ花を植えます。最初は土が固くてうまく掘れませんでしたが、シャベルの使い方のコツを教わって、だんだんスピードアップ。積極的に花を手にとって、植えていきました。

「最初は難しかったけど、わかりやすく教えてもらえました」「花の色や形を考えながら花壇を作るのは楽しかった」と、ジュニア記者は花との触れ合いを楽しみました。花は多くの人の心を穏やかにしてくれますね。皆さんも花を育てたり、緑に触れてみましょう。

▲「シャベルは垂直に刺してから土を掘り起こすのよ」と、普段使い慣れないシャベルの使い方を教わりました。「すごく掘りやすい」とジュニア記者も感動

▲「わっ、結構根が固まっているんですね」「花を植える前に根をほぐしてあげるとよく広がるのよ」

▲「植えた花壇が完成しました！」花を全部植え終わったジュニア記者。みんなうれしそう

◀▼花を植え終えたところで花の根元に全員で水やり。最後に花の名前が書かれた札を立てました

▲「咲き終わった花は摘み取って他の花に栄養が行くようにします」高瀬さんの指導で花がらを摘みます

第五中学校 ホタル放流式が行われました

4月27日、第五中学校で「ホタル放流式」が開催されました。五中では、きれいな井戸水を利用したビオトープでゲンジボタルの育成に取り組んでおり、今年で8年目。身近にホタルが鑑賞できる学校は東京都内でもめずらしく、貴重な体験になります。

式典後、一人ずつゲンジボタルの幼虫をビオトープに放流。「みんなで大事に育てていきたいです」と、放流式に参加した生徒は意気込んでいました。

▲水が流れるビオトープにゲンジボタルの幼虫を放しました

◀ビオトープにはきれいな井戸水が流れています

平成28年度 奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会を開催しました

3月11日、素盞雄神社で平成28年度奥の細道矢立初め子ども俳句相撲大会を開催。2人1組で俳句を詠み、トーナメント形式で「横綱」の座を目指しました。奥の細道矢立初めの地として知られる荒川区と、結びの地として知られる大垣市の小学生16組が登場。俳句を詠むだけでなく、身振り手振りも交えて発表し、会場からは大きな拍手が起こっていました。

◀▼結びの一番・決勝戦。チーム「きつつき」対「鳥と月」の熱戦の様子

横綱（優勝）には、大垣市日新小のチーム「きつつき」、東大関（準優勝）には、第三瑞光小の「鳥と月」が選ばれました。

懐かしいあの日あの時 想い出写真館

No.38 昭和57年ごろの荒川車庫

都電荒川線の荒川車庫前停留場の目の前には、名前の通り都電車両を格納する車庫があります。場所は西尾久ふれあい館の東裏手。道路を渡って車庫に入ったり、車庫から出てくる車両を見たことがある人もいるのでは。写真は、昭和57年ごろの荒川車庫です。

荒川車庫には都電おもいで広場があり、以前走っていた古い車両を見ることができます。

▶これから本線に出て走るために待機している車両が見えます

教えて！先生

みんなで身近な花を楽しんで

末広会　代表
藤森三恵子さん

家の近くや、よく通る道などに花が咲いていると心が安らぎますよね。身近な花をもっと増やしたいという思いで、「街なか花壇づくり」に参加しています。たくさんの花の名前を知ってもらえるように8種類の花を選びました。学校の行き帰りなどに花を見て、花や緑を大切にする心を育ててほしいと思います。

荒川区が取り組んでいる緑化事業

区民の皆さんが協力・参加して花や緑を広めている事業を紹介します　問合せ　道路公園課　☎内線2752

あらかわ緑・花大賞

区民の皆さんが作り育てている花壇や緑のカーテンなどの美しい花と緑を、平成21年度より毎年表彰しています。これは、受賞者が作り育てる美しい花と緑に刺激を受けて、新たに緑化活動に取り組む人の輪を広げていくことを目的として行っています。

▲緑のカーテンは日差しを遮り、環境にもやさしい

▶ハンギングバスケットを上手に活用

あらかわバラの市

都電沿線を彩っている約140種、1万3000株のバラ。都電沿線のバラの見頃に合わせ「あらかわバラの市」を開催しています。

鉢バラの販売やバラの育て方講習会、サクソフォンの演奏などの楽しいイベントが盛りだくさん。都電沿線のバラのお世話をしている緑化ボランティア団体「荒川バラの会」の皆さんが参加し、販売のサポートを行います。

◆会場　町屋駅周辺
◆日時　5月20日（土）
午前9時30分～
式典開始
式典終了後、販売開始

学校訪問

学校自慢

第三瑞光小学校

南千住7－9－1

学校の自慢を児童が紹介します

▲日本の伝統文化の茶道を学んでいます

▲新しくできた第二校舎の玄関です

三瑞小の自慢できることはたくさんあります。その中から三つ紹介します。

一つ目は、第一校舎と第二校舎があることです。第二校舎はとてもきれいで、保健室や給食室、エレベーター、多目的室、さらには、やまぼうし広場と呼ばれる場所や屋上でも遊べます。

二つ目はさまざまな行事があることです。一～三年生は学校に茶道の先生をお招きし、四～六年生は毎年三月のひなまつり茶会でお茶の作法を学習します。日本の伝統文化を体験できるとてもよい機会だと思います。

三つ目はさまざまなクラブがあることです。ボールゲームクラブや卓球や運動クラブだけでなく、料理や手芸、ダンスクラブもあります。今年から昔遊びクラブもできました。毎回、四～六年生が楽しんで活動しています。

◀クラブでは、みんなで楽しく体を動かしています

私たちは来年には三瑞小を卒業します。そう思うと少しさみしいです。でも、三瑞小のよさを残せるように、下級生のみなさんに引き継いでもらいたいです。

執筆　6年　石川紗弥子
森羽七
鈴木花歩
矢田千紘

部活動

第四中学校

荒川6－57－1

生徒が部活動を紹介します

▲この楽器がマリンバです

▲「吹奏楽のつどい」で演奏を披露しました

音楽部

私たち荒川四中音楽部は、3年生4人、2年生9人、1年生5人の計18人で活動しています。基本的には、月・木・金の週3日間活動しています。演奏会などが近くなると講師の先生をお招きして、ほぼ毎日の放課後と必要に応じて朝も練習をしています。昨年度は、文化祭での演奏の他にも、区主催の「吹奏楽のつどい」や区立中学校「合同演奏会」などに参加しました。

四中の音楽部には吹奏楽器はなく、マリンバやパーカッションを中心としたアンサンブルをしています。また、吹奏楽部と違い、担当の持ち楽器はありません。その曲ごとに、自分のやりたいパート、楽器を使って演奏することができます。今、私たちは7月の「あらかわ社明コンサート」で演奏する『となりのトトロ』や『小さな恋のうた』などの曲を練習しています。

顧問の先生は、片桐先生と西貝先生です。とても優しく、時には厳しく教えてくださります。夏休みなどの長期休業中も、私たちのために多くの練習時間をとり、見てくださっています。

四中音楽部では、アンサンブルで重要な、気持ちを合わせることと思いやりを大切にしています。いつも笑顔が絶えなく、学年関係なく仲良しです。今日も新入部員を迎え、元気に活動しています。

執筆　部長　3年　藤本來夢

あらかわ今昔ものがたり
あらかわの歴史と伝説
その108　道灌さんとあらかわ②
―幻の城・石浜城と道灌さん―

道灌山（西日暮里四丁目）が、太田道灌さん所縁の地名だということ、みんな知っているよね。山の上に道灌さんの出城があり、物見台が築かれたと言われている。日暮里駅前に建つ馬に乗った道灌さんの銅像は、日暮里との関わりを伝えるために建てられたんだね。

ところで、道灌さん所縁のお城がもう一つあるんだけど知ってるかい？

それはね、南千住三丁目の石浜神社の辺りにあったと言われる「石浜城」というお城だよ。

幻の城・石浜城

ここは、古代から使われてきた「隅田の渡し（橋場の渡し）」という渡し場があったところで有名だ。平安時代のさまざまな命令や決まり事を記した「類聚三代格」という本や、「伊勢物語」東下りのお話にも登場するんだよ。

都から東北に向かう重要な道路が通っていたので、沢山の人びとが利用した重要な渡し場なんだ。

平安時代の終わりごろ、そんな重要な場所に江戸重長さんが館を築いた。これが石浜城と呼ばれるようになるんだよ。

石浜城は、天守閣があるお城とは違うけど、歴史に度々登場するんだ。残念ながら遺跡は見つかっていない。その姿を今だ現さない幻の城なんだよ。

堅固な砦・石浜城

隅田川近くにあった石浜城は、なかなか落とすことが難しい城だったそうだ。南北朝時代の文和元年（1352年）、多摩地区で起きた武蔵野合戦の際、10万の新田軍に破れた足利尊氏が石浜城に逃げ込んだ。尊氏はここで体勢を建て直し、その後新田軍を蹴散らしたんだ。このことは有名な軍記物「太平記」に書かれているんだよ。

千葉兄弟を助けた道灌さん

室町時代、太田道灌さんは江戸城を築き、現在の荒川区・北区・豊島区・板橋区・練馬区周辺を治めていた豊島氏を滅ぼして、全てを支配することになった。

同じころ石浜城を手に入れた道灌さんは、石浜辺りの隅田川の景色がお気に入りで、京都から江戸にやってきたお友だちと船遊びをしたんだよ。道灌さんは下総国（千葉県）で一族の戦いに破れて逃げてきた千葉氏の本家の千葉実胤、自胤兄弟を助け、兄の実胤君を赤塚城（板橋区）、弟の自胤君を石浜城に入城させたんだってさ。

今度、石浜神社や石浜城に因んだ石浜城址公園に行って、太田道灌さんの活躍をイメージしながらお散歩してみてね。

石浜城址と伝わる石浜神社境内

問合せ　荒川ふるさと文化館
☎（3807）9234

尾久初空襲を語り継ぐ公開授業が実施されました

4月15日、第七中学校で「尾久初空襲を語り継ぐ公開授業」が行われました。これは、日本本土で初めて受けた空襲の歴史的意義や戦争の悲惨さを伝えるものです。実際に空襲を体験した方からの話を、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

▶空襲を受けて逃げる様子が詳しく語られました

防災部活動レポート

区立全中学校

ジャパン・レジリエンス・アワード　3月15日

3月15日、ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2017の表彰式が行われ、中学校防災部が特別賞を受賞しました。「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に、地域との連携や防災に関する活動などが評価されました。

▲表彰式で西川区長が代表して賞状を受け取りました

▲3月に開催された「あらBOSAI」での放水訓練の様子

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています。